

年間授業計画

第四商業高等学校（3学年用）

教科： 商業

科目 B選択 ソフトウェア活用

単位数： 3 単位

- ◆対象学年組： 第1学年 A組からE組
- ◆使用教科書： 「ソフトウェア活用」（実教出版）

◆教科: 商業 の目標：

〔知 識 及 び 技 能〕： 情報通信ネットワークの各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等〕： ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

学びに向かう力、人間性等〕： 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

◆科目 B選択 ソフトウェア活用 の目標：

【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】				
企業における事例など実際の情報通信ネットワークと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つネットワークに関する知識と技術を身に付けている。		情報を運ぶ通信網が世界中に設置されている。この通信網を情報通信ネットワークという。ネットワークを活用して、情報通信技術を電子商取引に応用する能力と態度を育てる。また、様々な知識、技術などを活用し、ネットワーク活用に関する課題を発見するとともに、情報処理ネットワークの根拠に基づいて考え、適切に判断・解決する力を養う。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら情報処理ネットワークについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用	身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおけるソフトウェアの活用の実例を学ぶことにより、情報通信ビジネスにおけるソフトウェア活用の重要性を理解する。	ソフトウェアの意義と重要性について考え、理解することができたか。 情報通信システムの特徴や処理方式の概要を理解し、ソフトウェアの意義や役割を考え、具体的な利用例を理解することができたか。 ネット通信ビジネスにおける情報通信システムに関心を持ち、各種決済システムなどの、ソフトウェアの意義や役割を考え、理解することができたか。 観光ビジネスとソフトウェアの活用、各種センサーとソフトウェアの関連などに関心を持ち、概要と目的を理解できたか。 ビジネスにおけるソフトウェアの役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。	○	○	○	3
	2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	ソフトウェアの進化が、社会の変化に与える影響を考える学習活動により、関連する知識を身に付ける。 Society5.0が実現しようとしている社会について考察し、ソフトウェアの活用例と目的を理解する。	IoT, AI, BDについて理解するとともに、関連するソフトウェア技術の活用と社会課題について、その関連性を考察しようとしている。 ソフトウェアの意義と社会課題について、様々な社会活動と関連付けてみいだせる。 ソフトウェアとビジネスや社会課題との関連について自ら学び、適切に活用し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
	2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用	5 2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用するコンピュータやプリンタをLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身に付ける。	ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、コンピュータやプリンタを適切にLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術について理解している。	○	○	○	5
	2節 情報資産の保護	情報資産を保護するため、ソフトウェアの脆弱性への対応や、無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解するとともに、情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や、暗号化の種類、データのバックアップなどについての基本的な技術を身に付ける。	情報資産を保護するため、ソフトウェアの脆弱性への対応や、無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解し、情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や、暗号化の種類、データのバックアップなどについてのな技術について理解している。	○	○	○	4
	定期考查			○	○	○	1
	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な集計や分析方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身に付ける。	表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解し、様々な方法で分析する能力を身に付けるとともに、分析結果を適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	○	○	○	15
	2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ	・リサーチ 表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付ける。	表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎について理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付けるとともに、適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	○	○	○	10
	3節 手続きの自動化	マクロの記録機能を用いて、手続きの自動化の考え方を理解し、基本的な技術を身に付ける。	マクロの記録機能を用いた、手続きの自動化について理解し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	○	○	○	2
	定期考查			○	○	○	1
	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース	データベースの特徴や基本的な機能を理解する。	データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。	○	○	○	2
2 学 期	2節 データベースの作成と操作	データベースソフトウェアを活用するための知識と技術について理解する。	データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術が身に付いている。	○	○	○	10
	定期考查			○	○	○	1
	3節 手続きの自動化	フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。	ユーザーフォームにボタンを配置し、これまで作成したクエリやフォーム、レポートを呼び出すマクロに関する知識と技術が身に付いている。	○	○	○	2
	4節 データベースの構造	データベースの構造を理解する。また、表を正規化するための手順を理解する。	データベースの表やデータ構造など基本的な知識を理解し、必要に応じた表の正規化ができる知識や思考が身に付いている。	○	○	○	2
	5節 SQLの操作	SQLを用いた汎用的なデータベースの操作方法について理解する	SQLの演習について自発的に取り組み、SQLの文法を理解し、データベースを適切に操作する技術が身に付いている。	○	○	○	5
	5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用	グループウェアを活用することの利点と、グループウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	グループウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	○	○	○	3
	2節 販売管理ソフトウェアの活用	販売管理ソフトウェアを活用することの利点と、販売管理ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	販売管理ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	○	○	○	3

	3節 給与計算ソフトウェアの活用	給与計算ソフトウェアを活用することの利点と、給与計算ソフトウェアを活用して効率的に業務を行う方法について理解する。	給与計算ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。	○	○	○	3
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎	情報システムの開発に関する基礎的な知識、技術について実務に即して理解するとともに、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発と関連付けて理解を深める。	一般的に利用されているシステム開発モデルについて、各手法の趣旨やメリット、デメリットを理解し、適切な手法を選択することができるか。 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において、どのモデルで開発を進めるかを、主体的に考え、思考することができるか。	○	○	○	2
	2節 アルゴリズムの基礎	情報システムの開発の中でのプログラミングにおいて、コンピュータに指示を出すための手順であるアルゴリズムについての基礎的な技術や、プログラミングに必要な関連する知識、技術を身に付ける。	アルゴリズムを表現するための流れ図について、問題解決のためにその技術を利用することができるか。 アルゴリズムの各種基礎的な考え方を理解しているか。 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的にアルゴリズムを表現することができるか。	○	○	○	13
	3節 情報システムの開発	演習 表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用した簡易な情報システムの開発を通して、企業活動の改善を科学的な根拠に基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。	企業活動が抱える課題を現状分析し、表計算ソフトウェア、あるいはデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的かつ協働的に取り組み、その技術を身に付けているか。 表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアの連携処理を理解し、情報システムに組み込む技術を身に付けているか。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
							合計
							105